

～輝きの子育て～

「足るを知る」

この冬、最強にして最長の寒波が来ています。「日本海寒帯気団（TPCZ）」という早口言葉のような寒波です。体には充分気を付けてください

人生をいかに生きるかを教えている本は数多くあります。^{さいこんたん}「菜根譚」という中国、明の末に洪自誠^{こうじせい}が書いたものです。人生の格言が詰まっていると読み継がれてきた本です。「足るを知る」ということについて。紹介したいと思います。

中国には『論語』をはじめ、人生訓や倫理観を説いた書物が数多く残されています。しかし、そうした深い思想的背景を持つ国でありながら、現在の中国社会において、それらの教えがどのように受け継がれてきたのか、いささか疑問を抱かざるを得ません。

また米国に目を向けると、国家の最高指導者自らが公然と強い欲求や利害を前面に押し出す姿が見られます。そこには、「足るを知る」という価値観とは対極にある風潮を感じさせられます。

国や体制の違いを超えて、現代は「足るを知る」ことがますます難しい時代になっています。だからこそ、この言葉を今一度見つめ直し、自らの生き方を省みる一助になればとの思いから、ここに筆を取りました。

現在は物が豊かです。居ながらにして世界中の物が手に入ります。食べようと思えば、何でも食べられます。経済的には全盛時代を謳歌しています。自分の欲しいものはどこまでも追及する。欲しいものは自分だけが満足すればそれでよいという時代になり、一時期には「負け組」「勝ち組」「セレブ」というような言葉が流行しました。

昔の日本人は、経済力で人を区別するような品のない人は、ほとんどいませんでした。現在は、とにかく人をおしのけて、あるいは小才を効かせて、人より一步でも前に出なければいけないと、走り続けるという時代です。しかし人生は必ずしも、それだけではないのです。一步、下がって自分の才能をある程度認めて、才能がなくても自分なりに安楽に生きていく、人の上に立とうと思わないで、人と一緒に生きていく。そうした心が豊かである人生の方が大切であると「菜根譚」は教えています。

こういうことを言うと、それは弱者の意見だ、敗残者の意見だと思うかも知れません。一体、敗者とは何か。例え、一時的に勝者になっても、長い人生でみるとわかりません。勝者だ、偉くなったと思ったら、何か悪いことにまき込まれたり、死ぬような病気になったりします。人生にはさまざまなことが起こります。自分が進歩、向上するための願望は持たなければなりません。これも「道」に外れない願望、欲望でないといけません。人生において、満足するということが、いかに大切かを知り、そういう気持ちを持つことと共に、いつも「微笑」を絶やさない人が理想になります。

宮沢賢治に有名な詩があります。

「雨ニモ負ケズ、風ニモ負ケズ、雪ニモ夏ノ暑サニモ負ケナイ、丈夫ナ体ヲモチ、欲ハナク、決シテ怒ラズ、イツモ静カニ笑ッテイル・・・」

斎藤 孝氏は「足るを知る」の解説の最後に映画「男はつらいよ」シリーズを親子で見て欲しいと結んでいます。

寅さんを中心として、笑い、大家族、旅、ほがらか、片思い、人情、優しさ、町中での話題が詰っています。「足るを知る」日本人の姿です。

片野 英司

参考・引用

図解 菜根譚 斎藤 孝 著

NHK CD心の探求「菜根譚」講師 鎌田 茂雄 氏